

真田地域協議会 第2分科会 テーマ「公共交通の利用促進」

1 はじめに

第2分科会では、平成22年度から真田地域まちづくり方針の「地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備」における「住民生活の利便性の向上が図られるよう、公共交通機関の確保・充実」の具体化に向け、路線バスを維持するための取り組みについて協議をしてきました。

第3期協議会（H22～23）では、平成24年1月20日に意見書（① 利便性に配慮し地域住民のバス利用を促進、② 観光客のバス利用を促進）を提出しました。

路線バス事業者は全て赤字経営であり、行政からの補助を受けてバスを運行しています。全国的には補助額の増加に対応できずに廃線となる路線バスも多いなか、上田市では利用促進策として、平成25年10月1日から運賃低減バスの運行を予定しています。これは、運行経費補助から利用者補助に視点を変えるものです。

第4期協議会（H24～25）においては、この上田市運賃低減バス運行計画と平成23年10月に発足した真田地域公共交通利用促進協議会の活動を踏まえ、公共交通の維持は必要であるという観点から、利用促進に向け利便性の向上について協議を進めてきました。

2 協議経過

平成24年8月22日から平成25年9月11日まで、11回の協議を行ないました。

主な内容は別表のとおりです。

3 公共交通を巡る問題点

(1) 利用者の減少

自家用車の普及とともに道路整備が進み車社会となってきたことから、路線バスは利用者が減少しており、バス事業者の経営を圧迫しています。下表は、上田バスの全路線の実績ですが、輸送人員・輸送収益ともに大きく減少し、輸送損益も赤字幅が大きくなってきています。

区分	昭和62年度	平成24年度	備考
輸送人員	174万人	31万人	5分の1以下
輸送収益	3億9,150万円	9,480万円	4分の1以下
輸送損益	△5,930万円	△1億220万円	

(2) 過疎化・高齢化の進行

全国的に人口減少となりつつあるなか、真田地域も 10 年間で人口は 7.6%減少し、高齢化率は 4%上昇しています。利用率を維持しても人口が減少すると利用者数は減少してしまいます。

区分	平成 14 年度	平成 24 年度	比較
人口	11,857 人	10,955 人	△902 人
高齢化率	23.4%	27.4%	4.0%

高齢化率 長野県 27.1% 上田市 26.2%

(3) 利便性の低下

利用客の減少により経費節減のため便数が減らされ、経営改善のために運賃が値上げされます。そのことが利用者の減少につながるという悪循環により利便性が低下しつつあります。

(4) 補助金の増加

真田地域の路線のうち、傍陽線は従来から廃止路線代替バスとして行政から補助を受けており、その補助金額も利用者の減少により年々増加しつつありましたが、平成 23 年度からは菅平高原線も補助対象となったため、補助金額が大きく増加することとなりました。

区分	平成 19 年度	平成 21 年度	平成 23 年度
補助金額	1,270 万円	1,540 万円	3,780 万円

4 公共交通を巡る課題等

- (1) バス路線維持のための補助金を減らす対策
- (2) バス利用者の利便性の確保・向上
- (3) 地域の公共交通は地域住民の手で守るという意識の浸透
- (4) 補助金依存体質によるコスト削減やサービス向上意識低下の懸念

5 公共交通を「乗って残す」ために

(1) 「路線バス運賃低減化」の成否

幸い、上田市ではバス路線を確保・維持・活性化するため「運賃低減バス運行計画」を立案し、この 10 月から「路線バスの運賃低減化」の試行に取り組みます。京丹後市

が、最高運賃 1140 円を一律 200 円にして成功（収入増）しているように、かなり期待されますが、地域住民がバスに乗ろうという行動を起こすかどうか成否のカギとなります。

そのため地域住民、学校・PTA・諸団体・企業などに出向いて説明したり、有線放送を繰り返し活用するなど、制度の周知を図っていただきたい。

また、自治会による「地域住民への回数券の購入付与」なども検討してみる必要があると思われます。

(2) ゆきむら夢工房のバスターミナル化

「ゆきむら夢工房」前のバス停はバス待避所がないため、夢工房駐車場をバスターミナルとして活用することを提案します。それにより乗客の利便性向上と施設の利用増を促し、観光客に対する案内充実・おみやげ等の販売促進が図られます。

(3) 観光客のバス利用促進

トレッキング客や登山等の観光客による路線バス利用促進も検討に値すると思われます。また、バス停に観光案内パンフを置くなどの工夫も望めます。

(4) ふれあいバスと路線バス・オレンジバス等との連携

それぞれ、目的が異なるバスですが、先線への乗り継ぎ、途中下車など工夫した連携が望めます。

(5) 定期券発行場所の増設

現在、真田地域内にはJA長店しか定期券の発行場所がありません。ゆきむら夢工房・西友真田店・コンビニエンスストアなど発行場所の増設が望めます。

(6) その他の利用促進策

イベント時の車掌復活を望む声もありました。

(7) ゾーンまたは時間単位での運賃設定の検討

将来の課題としては、同一ゾーンであれば同一運賃で乗車できるような設定の検討が挙げられました。

6 おわりに

この10月から始まる「路線バス運賃低減化」の試行には、当分科会としても、大変大きな関心を持っています。そして、なんとしても利用者の増加につながるよう、協力や努力を惜しまないところです。

路線バスの廃止は、高齢者や児童生徒、また自動車免許が無いなど公共交通に依存せざるを得ない人の移動の自由を奪うこととなります。地域全体で公共交通のあり方を真剣に考える必要があります。路線バスを「乗って残そう」の掛け声のもと、「公共交通を地域の手で守る」という意識の浸透を期待して止みません。

そして、制度的な隘路の多い中で、少しでも改善策につながる幾つかの提言を試み、公共交通の利用促進が図れるよう、地道な努力を積み重ねたいと考えています。

(別表) 協議経過

開催日	主な協議事項
平成24年8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・真田地域公共交通利用促進協議会総会資料の説明 ・夢工房をバスターミナル化・ふれあいバスとの連携について ・バス運賃低減化(京丹後市)例について
平成24年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスについて地域づくり委員会が出された意見について ・他地域の取り組み事例(東御市のレッツ号、丸子地域のまりんこ号、三重県玉城町のオンデマンドバス)
平成24年10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいバス」について ・運賃の設定について
平成24年11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・上田バスからバス運送の状況(輸送人員・輸送収益等)説明 ・利用促進対策について
平成24年12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進対策について ・真田地域公共交通利用促進協議会の活動について ・利用促進のため若者対策等
平成25年3月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス運行計画について説明(全体会)
平成25年5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス運行計画について説明(分科会)
平成25年6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス運行計画の周知について ・定期券の販売場所の増設、乗継割引等の利便性の向上 等
平成25年7月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいバス」について ・真田地域公共交通利用促進協議会総会について ・路線バスのゾーン制運賃について(海外の例)
平成25年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス実証運行のお知らせ ・路線バスとふれあいバスとの連携について
平成25年9月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会中間報告案の検討